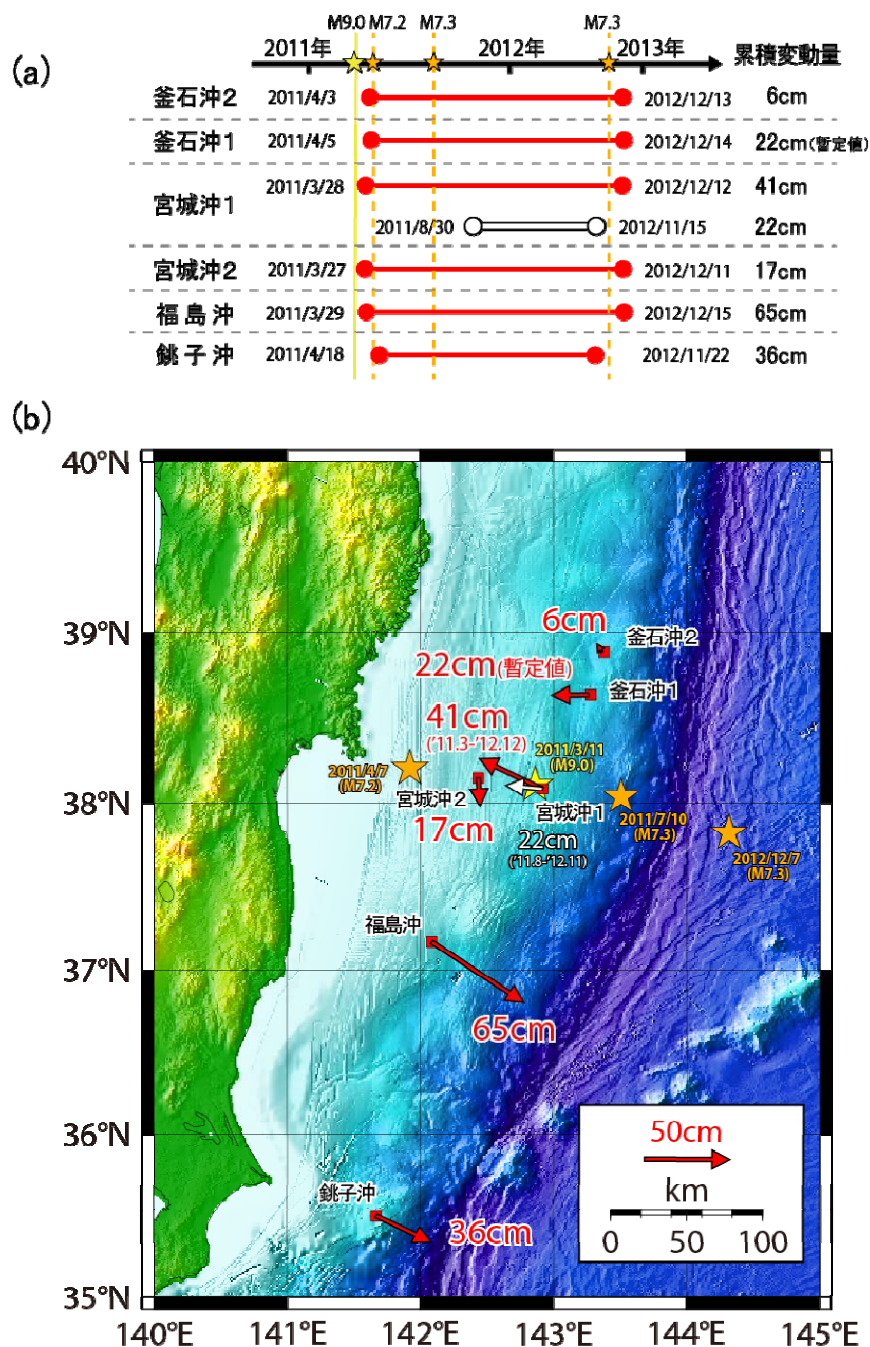




※(a)の観測期間を示すバーの色と(b)のベクトルの色とが対応している。
 赤色は、海上保安庁の海底基準点における地震後の全期間についての結果。
 白色は、「宮城沖1」の2011/7/10の余震(M7.3)後、2012/12/7の余震(M7.3)発生までの観測から得られた結果を示す。
 ※海上保安庁の値は、下里を基準として重心推定法(松本ほか、2008)にて解析した結果に、Sengoku(1998)による
 下里の移動速度(291°, 3.2cm/year)を補正して算出した。
 ※図中の星は観測点近傍で起きた主な地震(黄色は本震、橙色は余震)を示す。
 ※「釜石沖1」は、時系列データのばらつきが大きいため、暫定値である。

図11 東北地方太平洋沖地震発生後の水平方向の累積変動量

- (a) 地震後の各海底基準点の観測期間と累積変動量(ユーラシアプレート安定域固定)
 (b) 地震後の各海底基準点の移動ベクトル(海上保安庁[課題番号: 8006])